

令和8年度 学校経営計画

四條畷市立くすのき小学校
校長 花岡 純

Ⅰ 学校経営方針

子どもたちが生き抜く社会のめざすべき目的地として、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方(Well-Being)が重要視されるようになり、自己肯定感や自己実現などの獲得的 Well-Being と、人とのつながり、社会貢献意識などの協調的 Well-Being をバランスよく取り入れ、教育を通じて向上させていくことが求められている。

また、将来を見据えた教育の展望を示し、進むべき方向性を定めた四條畷市教育振興基本計画においては、「予測不可能な時代を豊かに生き、未来を拓く人材を育成するには、子からおとなまで、すべての人々が個性や創造性を発揮し、夢や可能性に挑戦しながら、協働し、学び続けることができる環境づくりが必要」とし、「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」を基本理念に掲げている。

これらのことから、子どもたちの抱える困難が多様化・複雑化するなか、学校における Well(よい)-Being(状態)の実現に向け、

- ✚ 自分自身を大切に、
- ✚ 他者をつながり、
- ✚ 夢や目標をもてる

をめざし、あらゆる教育活動をとおして、醸成していきたい。

実現に向けては、学校教育目標を「自ら考え、主体的に行動できる子どもの育成」とし、予測困難な時代を“たくましく主体的に”生き抜く力を育成していきたい。

学校教育目標：自ら考え、主体的に行動する子どもの育成

(1) 学ぶことへの主体性

- ① 学ぶことの楽しさを知る
- ② 他者と協働して学ぶことができる

(2) 他者をつながることの主体性

- ① 他者の考え方を認める
- ② 互いの違いを認める

(3) 夢や目標に向かって行動する主体性

- ① 自らの目標をもつことができる
- ② 目標に向かって行動することができる

重点取組：授業づくり、集団づくり、体力づくり等全ての教育活動に、SWPBSを位置づける

※SWPBS: School-Wide Positive Behavior Support

ポジティブな行動(望ましい行動)に着目し、ポジティブなアプローチでのばしていく

特に、話を聴く力を身につけ、学習規律を整えることで、安心して学べる教室づくりを行っていく

授業づくり: 授業のユニバーサルデザイン化の取組継続(全員参加の授業づくり)、基礎基本の定着

集団づくり: 互いの違いを認め合える集団の育成

体力づくり: 体育、保健、行事を中心とした体力の向上

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	①やってみたいことがある、学びたいことがある学校 ②安心できる居場所のある学校
★めざす子ども像	①自ら学ぼうとする子 ②他者とつながろうとする子 ③夢や目標に向かって行動しようとする子
★めざす教師像	①主体的に学校経営に参画し、協働的に教育活動ができる教師 ②学校教育目標の実現に向けて、自身の役割を認識、当事者意識をもって教育活動にあたることができる教師 ③教育の専門家として学び続ける教師

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校の児童は、元気で明るく素直な児童が多く、休み時間には、友だちと一緒に運動場を走り回る姿が印象的である。また、友だちに親切に優しく接することができる児童も多くいる。学校教育目標の実現に向け、自ら考えて主体的に行動すること、相手の考えや気持ちを認めつつ自分の思いを伝えること、粘り強く取り組むことを伸ばしていきたい。

主体性を身につけるにあたっては、日々の生活において、関わる大人が子ども一人ひとりに当事者意識をもたせることが肝要で、学習活動や友だちとの関係等直面する課題解決に向け、自己決定、自己選択していく過程を大切に、「たくましく主体的に」生きていく力の育成を図っていききたい。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校は平成18年に、四條畷西小学校と北出小学校を統合し誕生した学校である。校区は四條畷市の西端に位置し、北西部が寝屋川市、南西部が大東市に隣接している。東側には飯盛山の山並みを望み、その変化から四季を感じることができる。また、西側には田園風景が残り、大阪平野に沈む夕日が稲穂をあかね色に染める景色がみられ、自然環境が豊かな地域である。

学校敷地内には先人が植樹した樹木があり、満開の桜、深い緑、紅葉、落ち葉等季節の変化がみられ、校舎の中庭にある池には、メダカが泳ぎ、畑には植物が植えられ、自然とともに学習ができる環境にある。また、校庭は広く、保護者や地域の方の協力のもとにつくられたタイヤランドやみどり山は、子どもたちが心身ともにたくましく育っていく場になっている。

②地域

時代とともに考え方や価値観も変わり、地域行事の継続が難しくなりつつあるなか、季節ごとに行われる伝統的な行事には、子どもたちの姿もみられ、地域のつながりを大切にしながら子どもを育てていく文化がある。また、地域の方に参画いただき教育活動を進めていきたく、学校運営協議会を中心に、「子どもを見守るよき支援者」として、連携の在り方をともに考えていききたい。

③組織(教職員、PTA、保護者)

教職員は、学校の課題や子どもの困り感を把握しながら、家庭と連携して、学習指導や集団づくりに取り組むことを大切にしている。PTAは、加入が任意となったものの、多くの保護者が加入を継続されており、ともに子育てするなかで、「子どもを見守るよき支援者」として、その活動の意義や必要性を感じていただいている。

子どもたちが「たくましく主体的に」生きていく力の育成に向けては、ともに子どもを育てていくことの理解を深め、連携を図っていききたい。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ 『学校経営』

A 今年度の成果目標

達成基準(各種調査、アンケート等)

☆自ら考え、主体的に行動する子どもの育成

児童アンケート、学校教育自己診断 ※()は、R7の肯定的回答割合(%)

①学ぶことの楽しさを知る

A:学校に行くのは楽しいですか(81.6)

②他者と協働して学ぶ	B:学校の授業はよくわかりますか(90.8)
③他者の考えを認める	C:授業で友だちと相談したり、話し合ったりすることがありますか(91.2)
④互いの違いを認める	D:授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がありますか。(68.7)
⑤自らの目標を持つことができる	E:友だちの考えを最後まで聞いて理解しようとしていますか(95.9)
⑥目標に向かって行動することができる	F:友だちの考え方の違いを認めようとしていますか(88.0)
	G:学習や生活において、目標(めあて、ねらい)をもつことができますか(84.3)
	H:目標に向かって取り組んでいますか(87.1)

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
①学ぶことの楽しさを知る	A:85%以上	・児童が楽しく学べるような授業や行事を行う
②他者と協働して学ぶ	B:90%以上 C:90%以上 D:75%以上	・支援教育の観点を取り入れた授業づくりを行う ・授業に話し合い活動を取り入れる ・表現活動を位置づけた単元づくりを行う
③他者の考えを認める	E:90%以上	・話を最後まで聞いて理解しようとする力をつける
④互いの違いを認める	F:90%以上	・違いを認め合える集団づくりを行う
⑤自らの目標を持つことができる	G:90%以上	・学習や生活面の目標をもつ機会をつくる
⑥目標に向かって行動することができる	H:90%以上	・授業や行事等で目標、ねらいに即したフィードバックを行う

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
☆自ら考え、主体的に行動する子どもの育成に向けて全教職員で取り組むこと	教職員アンケート、学校教育自己診断	
①組織の目標や課題を共有する	※()は、R7の肯定的回答割合(%) I:学校教育目標や達成に向けた方策を共有していますか(94.3)	
②主体的に学校経営に参画し、協働的に教育活動を行う	K:学年・学校の取組みや事象等チーム体制で対応していますか(94.3)	
③SSW、SC等専門家、関係機関と連携したチーム体制を構築する	L:個別の困り感等の対応について、専門家の視点を取り入れて対応していますか(88.6)	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①組織の目標や課題を共有する	I:90%以上	・教職員に向けた校長だより、各担当者からの提案等において学校教育目標達成のための意識づける
②主体的に学校経営に参画し、協	K:90%以上	・各教職員が当事者意識をもって職務にあたることへの意識づけを図る

働的に教育活動を行う		
③SSW、SC等専門家、関係機関と連携したチーム体制を構築する	L:90%以上	・ケース会議等専門家や関係機関と連携する

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)
☆教育の専門家として学び続ける教師 ☆持続可能な教職員の勤務体制及び職場環境 ①全員参加の授業づくりを行う ②互いを認め合える集団をつくる ③体力の向上をめざす ④教育公務員としての適切な言動を心がける ⑤ワーク・ライフ・バランスを大切に、心身ともに健やかに働ける環境づくりを進める	教職員アンケート、学校教育自己診断 ※()は、R7の肯定的回答割合(%) M:特別支援教育の視点から、指導上の工夫を行いましたか(100) N:人権教育等を通じて、互いの違いを認め合える活動を取り入れましたか(100) O:体力向上をめざした授業や行事の取組みを進めている(97.1) P:教育公務員として相応しい言動を意識して職務遂行している(97.1) Q:年次休暇取得日数を12日以上取得する教職員の割合 R:1月あたりの定時退勤日の年平均回数 S:1年間における1か月時間外在校等時間の平均時間

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
①全員参加の視点をもった授業づくりを行う	M:95%以上	・研究授業、学校公開等主たる授業研究の機会を通じて指導の工夫を共有する
②互いを認め合える集団をつくる	N:95%以上	・人権教育の取組みを推進する
③体力の向上をめざす	O:95%以上	・体育の授業、日々のルーティン、行事等で取組を進める
④教育公務員としての適切な言動を心がける	P:100%	・望ましい言動を校長だより等で発信する
⑤働きやすい職場環境をつくる	Q:90%以上 R:2回程度 S:30時間程	・定時前に帰宅できる日は時間休の取得を推奨していく ・会議や研修を設定せずに、月1回は定時退勤日を設定する ・業務の平準化を図り、1月あたりの在校等時間45時間以下を意識させる

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)
☆社会に開かれた学校づくり ①学校の取組みを家庭、地域 ②学校運営協議会の効果的な連携を行うに発信する ③9年間を見通した小小、小中連携の取組みを推進す	学校教育自己診断 ※()は、R7の肯定的回答割合(%) R:教育目標や指導方針を文書や通信等で分かりやすく伝えている(96.3) S:学校ニーズに応じた取組みを行う T:合同研修、授業参観を実施する

る		
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①学校の取組みを家庭、地域に発信する	T:90%以上	・児童の学習の様子がわかるような学校だよりの発行、HPへの掲載を行う
②学校運営協議会の効果的な連携を行う	U:イベント開催、授業支援の充実	・児童が楽しめる行事の実施 ・学校運営や授業の支援を行う
③9年間を見通した小小、小中連携の取組みを推進する	V:年3回以上	・小中連携会議等を通じて、授業交流や進学の情報共有を図る